

どんぐりって しょうもん どんぐりは、縄文時代にはすでに、私たち人間にとって大切な食料でした。おいしいどんぐりはどれでしょう？

たべられるの？



クヌギ

コナラとともに雑木林をつくる木です。葉の縁には針のようなギザギザがあって、クリの葉によく似ています。まん丸くてかわいいどんぐりですが、食べるのには向いていません。



コナラ

雑木林を代表する木です。日当たりのよいところで育ちます。どんぐりを食べるには、長い時間水にさらしたり、加熱したりと、とても手間のかかるアク(灰汁)抜きが必要です。



シラカシ

葉は細長くて縁に少しギザギザがあります。段丘崖の斜面林を代表する木です。長時間水にさらしてアク抜きをしないと、食べられません。



アラカシ

葉はシラカシよりも幅広く、上半分の縁にギザギザがあります。どんぐりは、アク抜きをしないと食べられません。相模原にはほかにも、葉にギザギザのないアカガシなど、いくつかのカシの仲間が見られます。



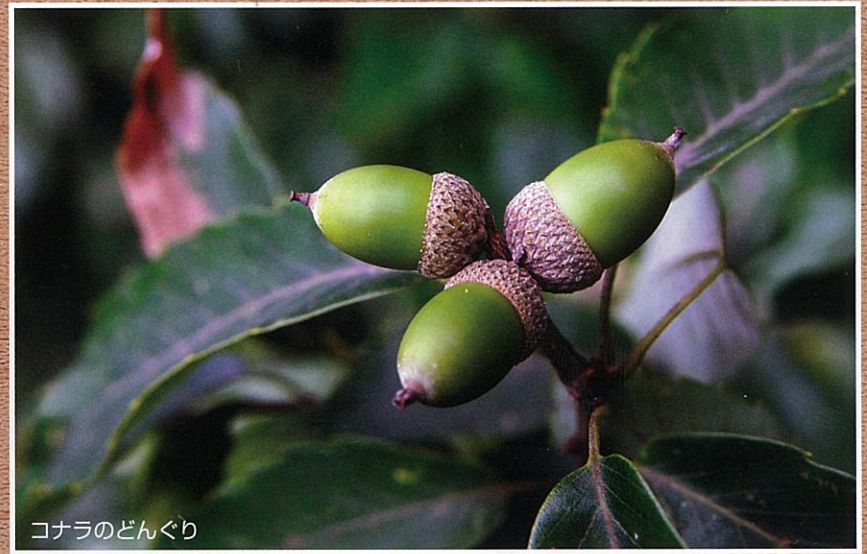
マテバシ

もともと相模原にはない木ですが、公園によく植えられています。大きくて形の良いどんぐりをたくさん実らせます。アク抜きをしなくても、調理すれば食べられます。でも、あまりおいしくありません。



スダジイ

市内ではあまり多くありませんが、シラカシ林の中にときどき見つけられます。葉の縁にギザギザがあるものと、ないものがあります。どんぐりは少し甘みがあって、生でもおいしく食べられます。



コナラのどんぐり

森のこどもたち どんぐり

さがみはらのどんぐり・

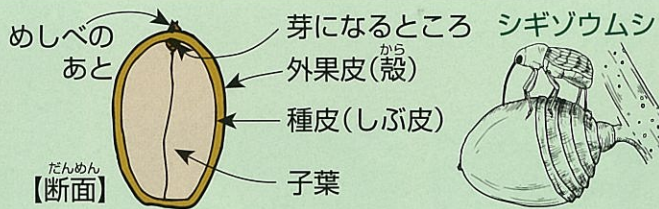
「どんぐり」とは、ブナ科のナラ、クヌギ、カシ、シイの仲間の種子をまとめて呼んだ名前です。ナラやクヌギは秋の終わりに葉をいっせいに落とす落葉樹らくようじゆで、カシやシイは一年中緑の葉をつける常緑樹じょうりよくじゆです。

相模原の特徴的な緑である段丘崖の斜面林だんきゅうがいしやめんりんのように、あまり人の手が入っていない樹林は、カシやシイなどの常緑樹がうっそうと茂ります。一方、かつて炭まきや薪の原料をとったり、堆肥たいひをつくるために落ち葉をかき集めた雑木林ぞうきばやしと呼ばれる樹林は、明るいとこに育つナラやクヌギといった落葉樹が中心です。雑木林は、伐採はっさいや落ち葉かきなどの手入れをしないと、しだいに暗いところでもよく育つ常緑樹の林におきかわっていきます。

私たちの社会が、雑木林をエネルギー供給の場として利用しなくなってからもう半世紀以上がたちます。今は緑地として保全され、そのおかげを残している市内の雑木林も、人々の生活との関わりが薄れ、昼なお暗い常緑樹林へと変化しつつあります。身近な緑の移りかわりを、どんぐりをおして見つめてみましょう。

どんぐりの見分け方

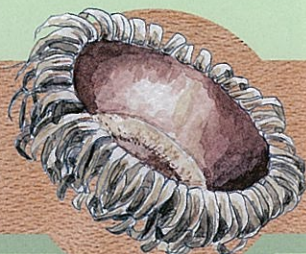
どんぐりには、花の咲いた年の秋に熟すものと、翌年の秋に、2年越しで熟すものがあります。コナラ、シラカシ、アラカシはその年に、クヌギ、マテバシイ、スダジイは2年越しです。



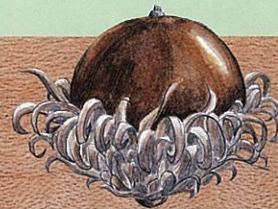
どんぐりを拾うと、中から白い虫が出てくることがあります。これは、シギゾウムシの仲間の幼虫です。親は、緑色の若いどんぐりに小さな穴を開け、卵を産み付けます。幼虫は、かたい殻に守られて中身を食べて成長し、大きくなると穴を広げてどんぐりから出ていきます。



まんまるい

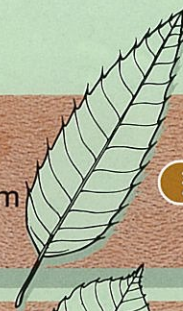


もじゃもじゃのはかま



実の直径
2~2.5cm

落葉樹 クヌギ



細長い



うろこ状のはかま



実の長さ
1.5~2.5cm

落葉樹 コナラ

カタチはいろいろ



実の長さ
2~3cm

常緑樹 マテバシイ



海沿いや高い山など、ちがう地域に行くと、ほかにもたくさん種類のどんぐりがあるよ。



しましまのはかま



実の長さ
1.5~2cm

細い葉
常緑樹 シラカシ



3つにさけるはかま



実の長さ
1.5~2cm

幅広の葉
常緑樹 アラカシ



常緑樹 スダジイ

